

会 議 録

- 会議の名称 富士川町介護保険運営協議会
富士川町地域包括支援センター運営協議会
(合同会議)
- 会議日時 令和5年3月16日(木) 午後7時30分から午後8時30分
- 開催場所 保健福祉支援センター 1階保健指導室
- 出席者 委員12名(欠席者2名) 事務局3名 傍聴者0名
- 運営協議会内容
 - 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 富士川町介護保険事業状況報告
 - (2) 地域包括支援センター事業状況報告
 - (3) 地域づくり加速化事業の支援を受けて報告
 - (4) 第9期介護保険事業計画について
 - (5) その他
 - 4 閉会
- 発言の内容
議事
 - (1) について
資料に基づき事務局より説明
<(1) についての質疑応答はなし>
 - (2) について
資料に基づき事務局より説明
<(2) についての質疑応答>
委員 : 地域包括支援センターの活動に参加されている方に対してアンケートは取っているか?

事務局：研修会については参加者にアンケートを取っている。

委員：アンケートの内容を次回でいいので報告してもらいたい。

(3) について

資料に基づき事務局より説明

< (3) についての質疑応答 >

委員：報告内容を聞いて、理論的で今後課題を解決していくとコスト（給付費）の削減できると思います。

総合事業の課題について初めて聞いたが、デイサービスが楽しいからそこに通い続けたいという気持ちはあるのは当然であって、それに変わる受け皿が必要となるが、その受け皿はどのようなことを想定もしくは検討しているのか。

事務局：利用者が総合事業を利用するまでの流れとしては、入院し、リハビリを行い、退院したあとにリハビリ型のデイサービスを使うという流れなので、リハビリ型デイサービスを使いながら状態が改善してきたら町の「こつこつ教室」などに移行して6ヶ月後に卒業。さらにその後は地域のサロンなどを案内するといった流れを考えているが、移動手段や地域の集まりには逆に参加しにくいなどの課題があるので、それ以外の新しい場所づくりをフォーラムの参加者から募るなどして様々な角度からの居場所づくりをしていきたいと考えている。

一事例としてリハビリ型デイサービスに通っていたが状態が良くなってきたので、「地域の筋力教室」を案内したが、参加できる時間が合わなかった。しかし、次の受け皿として「100歳体操」を案内したとこと歩いて通うようになり、リハビリ型デイサービスの利用から卒業ができたということがあった。このような循環が今後できていくと良いと考える。

当然、状態が悪くなってしまいう方もいるので、従来のデイサービスへの移行も検討しつつ、利用者に沿った循環を作っていきたいと考える。

(4) について

資料に基づき事務局より説明

< (4) についての質疑応答はなし >

(5) について

委員：介護給付費の推定値をみますと認定者数が横ばいの中で、他市町村の様子をみても介護給付費は右肩上がりの傾向が見られる。

その中で加速化事業の説明があったように、富士川町は予防の段階で

うまく給付費が押しえられていると思う。今回大変良かったのが事業を受けて、分析ができているという点。分析をすることで費用対効果の面を考えたときに同じ費用で少しでも大勢の方が生活ができるようになるというのはすごく大事なことだと思う。

先ほど地域包括支援センターに質問させてもらったのは地域包括支援センターの取組は目に触れる機会が多くないので、参加してくれた方のアウトプット評価として今後地域の中で生活ができていけるようになった、場合によっては病気はあるが周囲の支えあがれば生活できるようになったという面を多くの人目に触れてもらうことで、自分でもできるかなと思うようになってもらえると思う。

介護保険制度も浸透してきており、頼るようになってきてしまっているというのが見受けられる。

これからはいきいきサロンなどは通過点でその先の目標として自分たちが主体となって拠り所となる場所を社会資源として形成していくようになると、介護給付費の数値に変化が出てくると思う。そういった意味では方向は間違っていないので分析を行いつつ事業を行っていたきたいと思います。定期的に報告していただきありがとうございます。